

第1学年 生活科 学習指導案

福岡市立西花畑小学校

教諭 椎葉 拓朗

1. 単元名 じぶんでできるよ

2. 単元の目標

- 家庭生活について、調べたり尋ねたりすることを通して、家庭での生活は互いに支え合っていることに気づくことができる。 (知識・技能)
- 家庭生活について、調べたり尋ねたりすることを通して、家庭における家族のことや自分でできることなどを見つけることができる。 (思考・判断・表現力)
- 家庭生活について、調べたり尋ねたりすることを通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活したりしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、家庭生活について調べたり尋ねたりすることを通じ、自分の家庭生活を振り返り、家庭生活を支えている家族のことや家族のよさ、自分でできることなどを見つけ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たすことを主な目標として行う。

まず、自分が家庭でしていることを振り返り、自分の生活リズムがどのようになっているか考えることができる。また、家庭ではどのような仕事や役割があるかや、誰がその役割をよくしているかについて調べることで、自分の生活が家族に支えられていることについて考えることができる。

さらに、自分が家庭の中でできそうな役割を選び、実際に実施する。実施計画を立て、決められた期間の中で実施したことを記録していくことで、活動の内容や工夫したこと、よかったことや気づいたことなどの自分の活動を振り返るとともに、家族が普段どんなことに気をつけているか考えることができる。

また、活動前の自分と活動後の自分とを比較することで、できるようになったことを見つけ、さらに続けていきたいことや挑戦したいことについて考えたり、自分自身も家庭を構成している一人であることについて考えたりすることができる教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、まだ1年生ということもあり、SDGsについて理解している児童は少ない。年度当初から学級の黒板にSDGs目標の17項目を掲示しているが、関心をもち、話を聞きに来た児童は数名しかいない。知っている児童も、保護者や兄弟から聞いたり、テレビCMで見たりしたことがある程度である。

自分の生活を見直し、改善しようとする活動については、道徳『ちゃんとのかたづけ』の中で自分の学習や生活を振り返り、1週間(5日間)ちゃんとできるか取り組んだ経験がある。このことから、自分の生活を振り返り、目標を決めて実施するという活動は取り組みやすいものであると考える。

このように、SDGsを直接意識するところまではいかないが、家族の一員として支え合うことについて考えられる学習としての意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず、「じぶんの一日をみつめよう」とし、朝起きてから夜寝るまでにどんなことをしているか振り返り、伝え合う。また、家庭にある仕事や役割、誰がその役割をよくしているか調べ、自分の生活が家族に支えられていることについて考えさせる。

次に、「じぶんでできることをしよう」の中で、自分一人ではできないことと、家族が果たしている役割から、自分で取り組むことを1つずつ決め、1週間実施させる。この時、したことの内容や工夫したこと・やってみて考えたことなどを記録し、期間後に振り返ることができるようにさせる。

最後に、「これからつづけよう」の中で、できるようになったことを振り返るとともに、今後も続けていきたいことや新たに挑戦していきたいことについても考える。このことで、「行動目標=自分の生活の向上」につながるようにする。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点

多様性…家庭には、様々な仕事や役割があること

公平性…家族の中で、年齢や体力等に見合った役割をもち、支え合うこと

責任性…家族の中で、一人一人が役割を果たし、生活や行動意識を変えていくことが大切であること

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

現在の自分の生活行動から、どのような姿になりたいか考え、実践計画を立てる。

コミュニケーション力

自分たちにできること・実践したことについて、意見交流を通して自分の考えを作り上げる。また、その考えを伝える。

進んで参加する態度

計画をもとに、行動として実践し、自分から進んで家族への貢献をしよう（やり遂げよう）とする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代内の公正

家族全員の生活が豊かになるように追求することが大切である。

人権・文化を尊重する

家族の誰かだけでなく、家族全員で役割を分け、果たすという考え方を大切にする。

幸福感を重視する

自分が家族の一員であること、また互いに支え合っていることの幸福感を大切にする。

・達成が期待される SDG s

5 ジェンダー平等を実現しよう

16 平和と公正をすべての人に

4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考・判断・表現力	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>①家庭生活について、調べたり尋ねたりすることを通して、家庭での生活は互いに支え合っていることに気づくことができる。</p> <p>②家庭の仕事や役割について調べたり尋ねたりして獲得した知識を、具体的にまとめる技能を身につけている。</p>	<p>①家庭生活について、調べたり尋ねたりすることを通して、家庭における家族のことや自分でできることなどを見つけることができる。</p> <p>②家庭の仕事や役割から自分のできることを選択し、具体的に活動したり、その行動の内容や工夫などについて説明したりすることができる。</p>	<p>①家庭生活について、調べたり尋ねたりすることを通して、自分の役割を積極的に果たそうとしている。</p> <p>②自分の活動目標に無理がないかなど、実現可能であることを前提にした取り組みを考え、期間中や期間後も積極的かつ継続して取り組もうとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全6時間+α）

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 朝起きてから夜寝るまでに、どんなことをしているか自分の一日を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝起きたら、顔を洗って歯を磨くよ。 ・朝も夜も、ご飯を食べるよ。 <p>2 1の行動のうち、自分だけでできるとそうでないことについて伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でしていることは○○だよ。 ・手伝ってもらっていることも多いなあ。 	<p>○「よい」「悪い」など判定せず、家庭によって様々なスタイルがあることを認めるように確認する。</p> <p>○あとの活動につながるように、自分だけではできていないことが見て分かるようなワークシートにする。</p>	<p>ア① (知技)</p>
<p>外 自分の家庭にはどんな仕事や役割があるか調べる。</p> <p>3 家の人がしていることや、家の人にしてもらっていることについて伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご飯の準備や洗濯など、大変な仕事がたくさんあるよ。 ・学校の準備を手伝ってもらっているよ。 <p>4 家庭で自分ができることを考え、実施する計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふとんを自分で片付けようかな。 ・学校の準備を手伝ってもらわずしよう。 	<p>○家の人（大人）でないとできないことや、自分（子ども）でもできそうなことなど、その度合いについても考えるように促す。</p> <p>○家の人がしていること・家の人にしてもらっていることのうち、「自分だけで毎日」続けられることを選ぶようにさせる。</p>	<p>イ① (思判表)</p> <p>イ① (思判表)</p>
<p>外 計画したことに取り組む。 「おしごと名人チャレンジ」</p>	<p>○事前に通信などで各家庭に協力をお願いしておく。</p>	<p>ウ (主体的)</p>

<p>5 家庭で取り組んだことについてまとめ、伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしは、〇〇を毎日続けたよ。 ・〇〇を上手にするために、こんな工夫をしたよ。 	<p>○実演を交えるなど、友達への伝え方も工夫してよいことを伝えておく。</p>	
<p>6 今後も続けたいこと・新たに挑戦していきたいことについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも自分で片付けをしていくよ。 ・2年生になるまでに、〇〇ができるようになりたいなあ。 	<p>○友達同士で交流したあとでも、内容を修正していいようにして、よりよい目標を立てられるようにする。</p> <p>○期間をおいて、取り組みを続けている児童を取り上げて認めるなど、意欲が高まるようにする。</p>	<p>ア (知・技) イ (思判表) ウ (主体的)</p>

6. 成果と課題

- 家での仕事・役割調べの際に、「お父さん／お母さんが頑張っていた」…12名、家族が協力している・助け合っている」…6名、「家族がこんな役割をしていると気づいた」…3名など、家族の中での役割により、支え合っていることについて全体の約3分の2が気づくことができていた。

【多様性／公平性】

- また、この時点ですでに「自分も頑張りたい・役割を増やしたい」…11名、「一つ一つの仕事・役割が大事」…2名などの感想もあり、意欲的に家での役割に関わりたいという児童も見ることができた。

【責任性／未来像を予測して計画を立てる力】

- 保護者の協力もあり、5日間の“おしごと名人チャレンジ”期間をとることができた。感想では、「大変だった・難しかった」など…18名と、多くの児童が毎日その仕事や役割をすることの大変さを実感することができていた。また、「楽しかった」…8名、「いいことだと思った」…3名、「家族の笑顔が見れた」…1名など、自分が仕事をするを前向きにとらえる児童も見られた。

【人権・文化を尊重する／幸福感を重視する】

- 今後のことを尋ねると、「続けたい」…14名、「新しい仕事・役割に挑戦したい」…16名と、ほとんどの児童がいずれかの形で続けようという意思を示した。

【責任性／進んで参加する態度】

- 児童のうち3名が、期間中に全く役割を実施していなかった。自主性を重んじて期間中に声をかけることを自重していたが、1年生ということを考慮して、毎日クラス全体に話を振る程度の意識付けはすべきだったと考える。
- 実践したあとの「実践交流を通して、自分の考えを作り上げる。また、それを伝える」という過程をうまく行うことができなかつた。まだ語彙・文章力も乏しいので、子ども達が考えをまとめやすいプリントの工夫などが必要である。
- 学習終了から3週間後にアンケートを実施したところ、「現在も続けている」…12人、「新しい役割をしている」…3人と、現在も続いているのはクラスの半分にとどまった。『持続可能』の視点で考えると、長期的に続けられる取り組み（役割）を示したり、もっと短いスパンで声をかけたりするなどの必要性があったと考える。

現在の学年終了時に目指す姿

自分の成長は周囲の人々に支えられていることに気づき、家族・仲間の一員であることを自覚して、自分には何ができているか考えることができる。また、それを実行することができる。

国語科「みんなにしらせたいこと」

みんなに知らせたいことを考え、話の順序を考えながら、友達にわかるように話す力をつけたい。

国語科「ずうとずっと大すきだよ」

家族が、エルフをどれだけ大切にしているかを読み取り、自分に重ねることによって、家族に対する愛情をもたせたい。

自分も、家族を大切に思っているから、その気持ちを大切にしたい。

生活科「もうすぐ2年生」

1年間の自分の成長を振り返る中で、自分ができるようになったことが増えたことに気づかせたい。

生活科 「じぶんでできるよ」

- 主に養いたいESDの資質・能力
- ・未来像を予測して計画を立てる力
- ・コミュニケーションを行う力
- ・進んで参加する態度

現在の自分の生活行動を見つめ直し、なりたい自分の姿を考えて計画を立てる。その姿にお互に積極的に行動化を図る。

○主に育てたいESDの価値観

- ・世代内の公正
- ・人権・文化を尊重する
- ・幸福感を重視する

家族の一員として、自分もできる役割を果たそうという考え方を大事にする。また、家族で支え合うことの幸福感を大切にす。

1年生の間に、こんなにできることが増えたぞ。まだまだ増やしていきたいなあ。

わたしは、お家の人にたくさんのお話を聞いてもらっているんだなあ。

道徳「わたしにできること」

小学校に入学して間もなくの子ども達も、してもらっていることはどんなことなのか、自分でできることはどんなことか考える。

道徳「ちやんとのとつじん①」

「ちやんとのとつじん②」

“ちやんと”するということ、今、自分には“ちやんと”できているのかということに気づかせ、よりよい行動や生活ができるように取り组ませたい。

ちやんとするって、大変だけど、できると気持ちいいなあ。